

ドクターからの 健康アドバイス

- ※本ページの内容は当院の医療専門職が監修・執筆しています。
- ※内容は一般的な健康情報であり、診断・治療を目的としたものではありません。
- ※本ページには医師以外の医療専門職による記事も含まれます。



赤ちゃんの股関節脱臼



4月から小児整形外科を専門とする、蓮井 麻由子医師が着任しました。
今回は、赤ちゃんの先天性股関節脱臼についてお話しします。

股関節脱臼って？

1,000人に1人程度の
頻度で発生しています

股関節は、マッチ棒の頭のような球形の大腿骨と、それがぴったりはまるくぼみを持った骨盤との関節です。その股関節が生まれたときに脱臼している場合もあれば、乳児期の中に徐々に脱臼していく場合もあり、発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)と呼ばれています。

痛みを伴わず、外傷などの明らかなきっかけもなく、知らない間に徐々に脱臼しています。古くから存在する疾患で、発見が遅くなり、治療が遅くなると成人期において変形性股関節症に発展するリスクが高まることがわかっています。

そこで、乳児期の早い段階で発見し、適切な治療につなげるために、乳児健診(1ヶ月健診、3~4ヶ月健診、後期健診)で股関節の開きなどを確認することが項目に入っています。

お気軽にご相談
ください



【整形外科】

蓮井 麻由子 医師
専門領域:小児整形外科

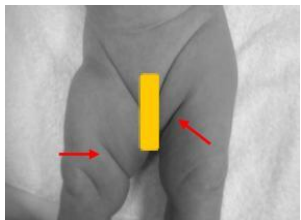
👍 早期発見のチェックポイント 1.

以下の2項目のうち、いずれかひとつでも当てはまれば脱臼が疑われます。
早目に小児科または整形外科を受診してください。



A: どちらかの脚(まれに両方)が常に立て膝や伸びた状態で、
股関節の開きが悪い場合

※向き癖と反対側の脚が立て膝になったり、伸びたりしている
ことが多いです



B: 太もものしわが
左右非対称

赤ちゃんがあおむけに寝た状態で、
M字型開脚となって自由に両脚を
動かしているか見て下さい。

👉 早期発見のチェックポイント 2.

下記の①から⑤のうち、複数の項目が当てはまる場合は
乳児健診の時に申告していただくか、受診をお勧めします。

— 脱臼が発生する可能性が高い赤ちゃん —

- ① 向き癖(首がすわる前に同じ方向ばかり向いている状態)がある
- ② 女の子 (男の子より発生頻度が高いです)
- ③ 家族に股関節の悪い人がいる
- ④ 逆子(骨盤位)だった
- ⑤ 寒い地域や時期(11月から3月)に生まれた
(脚を伸ばした状態で衣服でくるんでしまうため)

(ミニ情報)

先天性股関節脱臼の発生は、
予防啓発や、乳幼児健診の実
施などで、1970年代の1/10
に激減しました。しかし、逆に
認知度が薄れたため、診断が
遅れて治療に難渋する
ケースがあります。

股関節脱臼の発生・悪化の防止はどうすればいいの？



生まれてからの赤ちゃんの扱い方が大切です

これらの工夫はすべての赤ちゃんの股関節の発達に良い効果をもたらします。
赤ちゃんが生まれたらとても忙しい毎日になると思いますが、ぜひ工夫してみましょう。

Q.1 赤ちゃんの過ごし方は？

A. M字型開脚を基本に自由な運動を

赤ちゃんの股関節は、両膝と股関節を曲げてM字型に開脚した
姿勢が基本です。たてよこ自由に脚が動かせるように横から
締め付けるようなおむつや衣服はさけてください。



の～びのび♪



Q. 抱っこの仕方は？

A. 正面抱きの「コアラ抱っこ」をしましょう

M字開脚を保てる抱っこが基本です。首がすわる前は
横抱きが多いですが、スリングのような横から締め付けるよう
な抱っこは避けて、脚の自由がきく横抱きをしましょう。

首がすわってからは縦抱きが多くなりますが、向かい合っ
た状態での正面抱きで十分股関節が曲がり、M字開脚を再
現できるような抱っこひもを選びましょう。この抱き方をす
ることで、少し開きが硬かった股関節も徐々に開くようになる効
果も期待できます。



足を開いて
おしりを支えて
前抱っこ